

## 台湾現地レポート③

### 制度化されたレジリエンス教育の現場

本日 2 月 11 日午前 9 時 30 分より、国防安全研究院の国際会議場において、「例會暨專題講座(定例会および専門講座)」が実施され INDSR スタッフ全員を対象とした消防教育訓練が実施された。

講座は「上半年消防教育訓練講習暨春節防災安全宣導」として行われ、中華民國消防安全協會邵黎明主任教官による実践的な講習が行われた。内容は、火災報知機の設置基準、消火器の使用方法、火災発生時の初動対応、過去の火災事例分析など、極めて具体的で実務に直結するものであった。

特に強調されていたのは、「知識を持つこと」と同時に、「いざという時にどう行動するか」という判断力である。単なる設備説明ではなく、個々人が自ら考え、冷静に行動する能力の涵養が目的とされていた点が印象的であった。

また董事長からは、都市化とコミュニティ構造の変化を背景に、教育現場、地域、企業、不動産管理会社など多様な主体が安全教育を担う必要性が示された。防衛・防災意識は小学校から大学までの全教育段階で醸成されるべきであり、家庭内で「知っていること」「準備すべきこと」を共有することが、社会全体の基盤的レジリエンスを形成するとの指摘があった。

本講習は、部門別名簿への署名を伴う形式で実施され、終了後にはアンケートも配布された。現在、参加率および回答率を確認中である。教育が制度として組み込まれ、検証プロセスまで含めて運用されている点は注目に値する。

本事例は、私の研究テーマである「民主社会における市民レジリエンス形成」にとって重要な一次事例となる。BCP 的思考に基づく人材育成は、組織内部にとどまらず、家庭・地域社会へと波及する構造を持つ。

レジリエンスとは、人々が自ら考え、行動できる社会の中で育まれるものです。本日の講習は、台湾における制度化されたレジリエンス教育の一端を確認する機会となった。



國家安全研究所における全職員対象の消防教育訓練。部門別署名制およびアンケート実施により、教育効果検証が制度に組み込まれている。



消火器操作手順「拉・瞄・壓・掃」の視覚的提示。行動を単純化し、即時判断を可能にする教育設計が確認できる。



中華民國消防安全協会による消火器操作の実演。実物を用いた訓練により、「拉・瞄・壓・掃」の行動手順を身体的に理解させる教育が行われた。



講師への感謝状贈呈の様子。組織として防災教育を制度的に位置づけていることが示される。